

令和7年度 羽曳が丘 学力向上の研究構想図

園の教育目標

＜生きる力＞の基礎を培い、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

家庭の実態

- ・ 幼稚園ならではの、のびのびとした保育を望まれる方が多い。
- ・ 入園前から積極的に地域と関わりをもたれる家庭もある。
- ・ 子どもに愛情深く接し、寄り添って子育てをされている家庭が多い。だが、手厚く関わるあまり自立のタイミングが遅れる様子も見られる。
- ・ 他機関と幼稚園とを併用し、児童への適切な支援や援助を受けている家庭が増えてきている。また保護者自身への支援の必要な家庭もある。

地域の実態

- ・ 地域的に新旧の宅地で分かれて建っている。全体的な子どもの人数が減ってきている。
- ・ 幼稚園に対して、常に温かい応援をしてくださり、協力的である。
- ・ 交流など、ご自身も幼稚園児と触れ合うことを楽しみにしている方が多い。

めざす幼児像

- ・ 気付きのある子ども(興味・関心・人権意識)
- ・ しっかり聴く、はっきり言える子ども(表現・言語・意思)
- ・ 根気よく取り組み、挑戦していく子ども(意欲・努力・根気)
- ・ 正しく見て、考えられる子ども(公正・判断力・思考力)
- ・ 好きな人、好きなものがある子ども(愛着・感性)

「みねちゅう」校区のめざす子どもの像

「心温かく、力強く、生き抜く子」

みんな元気にあいさつしようねばり強く学習・運動しよう
ちからをあわせて協力しようゆう気をだしてチャレンジしよう
うれしいことはみんなで拍手しよう

今年度の重点課題

基礎体力向上と「感じる力」「考える力」「伝え合う力」を基盤に、コミュニケーション力、課題解決力のある子どもの育成をめざす。
～異年齢グループ活動を通して～

幼児の実態

- ・ 挨拶を積極的にする
- ・ 知的好奇心が旺盛で、絵本や図鑑などにも親しんでいる。
- ・ 絵本などのお話をいろいろな人に読みとどけてもらっている経験が多い。
- ・ 五感を通じた実体験や、歩行・自然と接する遊びの経験が少ないと感じられる また個人差が大きい。
- ・ 好きなこと、得意なことに関しては夢中になって何度も繰り返し取り組む姿が見られる。

3・4歳児の実態

- 教師や友達と過ごすことを楽しむ一方で、自分の気持ちを言葉で伝えることが難しい子どもがいる。
- これまでの経験不足や個人差が大きく、幼稚園生活や友達との遊びの共有において難しい場面がある。
- 気の合う友達と楽しく遊ぶ姿が見られる一方で、自分が好きな遊びをじっくりと遊びこむ姿が見られる。

家庭教育との連続性から

- ・ 「遊び」を「学び」につなげるために、教員が日々の保育の中から見だし把握して、保護者に伝える(可視化していく)
- ・ 子どもとともに生活する中での子どもの学びを引き出し、保護者に伝え、共有し合う

5歳児の実態

- 自分の意見をしっかり伝えられる子どもと、あまり表現できない子どもがいる。
- 得意なことに繰り返し挑戦する姿が見られるが、初めてのことに對しては慎重になる場面もある。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

・健康な体と心 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え
・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重
・数量や図形、標識や文字への関心・感覚 ・言葉による伝え合い・豊かな感性と表現

仲間づくり

人の話を聞き、相手のことを理解することから始めよう

遊びの中の学び

遊びの中で発見、疑問、調べる、工夫、感動、共有などを大切にしよう

地域との共生

地域のことがらに触れ、変化に気付き、対応できるようになろう

研究方法

- ・ 人と人との出会いのためのコーディネート力を身に付けるために、積極的に地域に出かけたり、研修会や会合などに参加したりして、教員が人の間で生きる実体験を積んでいく。
- ・ 子の思い・親の思いを探り捉えて、問題点を改善していく、ねらい・目標を明確に表して伝え、幼稚園教育の理解を得るための工夫を図る。
- ・ 幼稚園としての子育て支援のあり方を、他機関に積極的に働きかけながら、実態と照らし合わせ、工夫していく。
- ・ 小学校教育との連続性を図るため、幼稚園教育の内容と学びのつながりを把握、理解し、相互の教員間の連携を密にする。
- ・ 3歳児のアセスメントを教員間の連携を密にし、意識的に取り組む。

教員の基本姿勢

- ・ 精神的安定のよりどころとして、いつも幼児を受け止めるための心の余裕をもつ(計画性)。
- ・ モデリングのため、資質の向上に努め、いつも、どんなときも感性を磨き、学校園の外の世界にも目をむける(道徳性・社会性)。
- ・ 共同作業の協力者として、幼児の心の動きの先を見通し、アイデアと工夫で適切な環境が整えられるようにする(創造性)。
- ・ 理解者として、幼児の心に寄り添うために、観察と分析を弛まず行い、教員自ら相互協力の姿勢をもって、丁寧な保育に努める。
- ・ また、教員間の連携を密にし、幼児を多面的に捉えていく(緻密性)。
- ・ 援助者として、子どもの思いや願いに応えられるよう、教員の技術を磨き、実体験を積み、能力を高める努力をする(向上心)。
- ・ 3歳児保育実施にともない、情報を収集し、資質向上に努める。